

ダンスコンテストへのちよう戦

御油小 四年 磯部 由奈

「コンテストに出たい人は、申しこんでください。」

と、先生の声。レッスンが終わった後のことでした。やってみたいと、まよわず思いましたが、くわしく話を聞いていくと、できるかなと心配になってきました。このコンテストは、ケーポップのグループのコピーダンスを発表する会で、四人のうち二人だけ選ばれてグループを組んで参加できるのです。また、ダンスは、一人一人ちがう動きがあるし、速くなったりおそくなったりするので、ついていけるか、とても不安になりました。でも、ぜっ対にコンテストに出たいと思い、いろんなグループのダンスをチューブで見えてまねしたり、母に見てもらい、まちがいを直したりと、自分にできることを考えて、一生けん命自主練習をしました。やっていくうちに、だんだん自信がもてるようになってきました。

「こんなチャンスはなかなかないから一生けん命がんばってね。」と、母もおうえんしてくれたのでうれしくなり、練習をますますがんばりました。そして、母に動画をとってもらい、先生に送りしました。合かく発表まで一週間ありました。その間、あのおどり方でよかったのかなとか、自分だけが外れてしまわないかななどと、とても心配で落ち着かない毎日でした。

一週間後、いつもように教室に行き、いつものようにレッスンをして、最後にオーディションの結果が発表されました。

「それでは、合かくした人を発表します。一人目は、磯部由奈さん。

三月に一人で出たステージでおどったダンスがすばらしかったので、選びました。」

と、先生がほめながら発表してくれました。わたしの他には、五年生の子が二人と六年生の子が一人選ばれました。わたしは、うれしくて、心の中で、「やったあ。」とさけびました。いっしょにいた母も、

「ソロで発表した時、はずかしがらずに動きをくふうして堂々とおどったから、選ばれたんだよ。よかったね。」

今回、オーディションに合かくした四人でグループを組んで、コンテストにちよう戦することになりました。わたしたちのグループ名は、「Cheeky」です。練習期間は二ヶ月ちよつとですごく楽しみでしたが、うまくできるかとても心配でした。初めて四人で顔を合わせのおどつてみると、みんなとても上手でした。ついていけるかなと心配をしていたところ、やっぱりわたしが注意されることが、とても多くてくやしかったです。だから、家でもう特訓しました。母が流してくれる曲に合わせて練習を積み重ねました。何度やっても同じところばかりまちがえるので、くやしくてなみだが出てきました。それも選ばれたのだから、やり通そうと毎日がんばりました。だんだん先生のお手本にした動きができるようになってきました。四人集まって行うレッスンの休けい中には、静かにしていることが多かったけれど、少しずつおしゃべりができるようになりました。コンテストの日が近づき、四人で合わせる練習がふえてきて、ダンスもだんだん合うようになってきました。

八月十二日、コンテストの日がやってきました。会場は名古屋。

リハーサルでステージに上がると、「K-pop.in」というかん板が目に入りました。本当にできるかなときんちようしてきて、不安になりました。でも、コンテストに出られなかった子の分までがんばろうと思いました。

コンテストが始まりました。わたしたちのふりつけは、四人いっしよの動きもありますが、一人一人役わりがあり、ばらばらのふり付けだったりソロでおどったりと、とてもむずかしかったです。でも、レッスンの最後の方は、みんなの息がぴったり合い、ダンスもそろっていました。だから、だいじょうぶだと思い、ステージのそでで待っていました。

「次は、Cheekyのみなさんです。」

アナウンスが入り、いよいよわたしたし達の出番です。どきどきしながらステージに出て、最初のポーズをとりました。音楽が鳴り、ダンスがスタートしました。ふりを大きく、細かいところをちゃんと出そう。表じょうをよくしよう。気持ちを合わせてかつこよくしようなどと、今までやってきた練習を思い出しながら、全力でおどりました。参加した他のグループも、みんなかつこよくて上手でした。

全部のグループが終わり、いよいよ結果発表です。わたしたちのグループは、さんねんながら、入賞することはできませんでしたが、好きな曲でダンスにちょう戦することができて、とても楽しかったです。両親やそ母、メンバーのお母さん達、先生方からいっぱいほめてもらってうれしかったです。ほかのチームの先生方も

「すごいね。上手だったよ。」

と言ってくれたことを、わたし達の先生から教えてもらいました。

それを聞いて、またがんばろうと思いました。

ダンスでステージに立つというのが、わたしのゆめだったので、そのゆめの第一歩をふみ出すことができて、今まで感じたことのない不思議な気持ちになりました。そして、すてきなダンス仲間に出会えたこともうれしかったです。このけい験を生かして、もっともつと人を感動させられるような、世界中の人達の心にひびくような、そんなダンスができるように、これからもずっと続けていきたいです。そして、世界一のダンサーになれたらうれしいです。